

令和3年度 学力向上指導改善プラン

三田市立けやき台中学校長 谷本 正弘

学校教育目標		「夢や希望を持ち、目標に向かってたくましく、しなやかに生きる生徒の育成 ～明るく、わ(和・輪)のある学校～」		4月		2～3月		
推進主体		研究推進委員会(管理職、研究推進担当、新学習担当、国語科・数学科教科担当、特別活動担当で構成)		学力向上に向けての 重点的な目標		年度末評価		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				成果となる目標 (指標となる数値等)		具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)		
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
						評価		
学 力 の 状 況	全国学力・学習 状況調査結果の 状況 (国語、算数・数 学に関する質問 紙調査の結果も 含む)	国語 算数 数学	【国語】 ◇一昨年度の結果より、「読むこと」の正答率は83.0% (全国72.2%)、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率は78.5% (全国67.7%)であり、共に全国平均より10ポイント以上高かった。 ◆一昨年度の結果より、「書くこと」の領域についても、正答率が全国平均より高かったが、+2.5ポイントと、他の領域に比べると低めであった。特に「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」設問では、正答率が77.3%と全国平均より0.5ポイント低かった。また、問題形式において記述式は、選択式や短答式に比べると無回答率が高い。したがって、考えを論理的に組み立てて表現する(書く、話す)ことに対して課題があると考えられる。 【数学】 ◇一昨年度の結果より、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域すべてにおいて、正答率が全国平均より高かった。とくに、「関数」の領域では、正答率が59.4%(全国40.8%)で全国平均より18.6ポイント高かった。 ◇評価の観点別では、「数学的な技能」「数学的な見方や考え方」はともに全国平均より10ポイント以上高く、基本的な計算はもちろんのこと、応用問題も含めて数学の問題を解くことに慣れているため、より一層深い理解につなげていきたい。 ◆与えられた条件から新たな事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低いため、統合的・発展的に事象をとらえることに課題があると考えられる。	1. 授業改善	○学校評価生徒アンケートにおいて、昨年度に引き続き「生徒は授業に真剣に取り組む、わかりやすいと言っている。」の項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。 ○学校評価生徒アンケートにおいて、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。	○『これからの時代に求められる資質・能力の育成ー「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通してー』を研究テーマとし、学習指導の工夫、授業改善に取り組む。 ○「自分にもできた、分かった」と生徒が実感できる授業の工夫をする。 ○「めあて(見通し)」と「振り返り」を取り入れた授業を行い、生徒の学びに対する自己調整能力を高める指導を行う。 ○協働的・探究的な学習を積極的に取り入れた授業を行う。その中で、ホワイトボードやiPadなどを活用し、「図・表・グラフ」などの資料を効果的に提示し、自分の意見を述べるとともに、他者の考えに触れ、対話を通じて考えを深める機会をつくる。 ○根拠を明らかにして、論理的に書く・話すの力の育成(表や図、グラフや資料の読み取りや活用)をする。 ○ICT機器(大型モニター/iPad/PC/プロジェクターなど)を効果的に活用した授業を行う。 ○「授業参観weeks」で、全教員が互見授業をおこない、「生徒の学びの姿」を授業改善につなげる。 ○校内研修及び、研究授業を積極的に行う。	◇学校評価生徒アンケートにおいて、「生徒は授業に真剣に取り組む、分かりやすいと言っている。」の項目は、肯定的評価(そう思う/だいたいそう思う)が94ポイントであった。また、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目は、肯定的評価が92ポイントであった。これらの結果より、生徒は授業を中心とした学校での学習活動に積極的に取り組んでいると考えられる。 ◇今年度も「めあて」と「振り返り」を取り入れた授業を行い、生徒が自己の学びについてふり返るとともに、他者の学びの良いところに共感し、自己の学びを調整しながらより良い学びを目指そうとする様子が見られた。 ◇コロナ禍において、学校での学びには多くの制限があったが、iPadの機能やホワイトボードなどを活用して、生徒が自分の考えや意見を発信するとともに、他者の考えや意見に触れ、対話を通じて価値について議論をしたり、協働して課題を解決するような学習活動を行うことができた。 ◆一方で、学校評価保護者アンケートにおいて、「生徒は授業に真剣に取り組む、分かりやすいと言っている。」の項目は、肯定的評価が74ポイントであり、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目は、肯定的評価が72ポイントであった。いずれの項目においても、生徒の実感とは20ポイント程度のズレが生じていることから、保護者の本校教育活動への関心や期待の高さがうかがえる。今後の各授業及び学習活動において「育成を目指す資質・能力」のさらなる明確化を図り、生徒が予測困難な社会の変化に主体的に関わり、学び続けられるような指導の工夫を継続して行う。 ◆授業において、発信された様々な考えや意見を学習した内容や方法と照らし合わせながら分析し、論拠を明らかにしながら自らの考えを伝えあうことができる力や学びの雰囲気を高めていくことが課題である。来年度は、「iPadの効果的な活用の推進」を研究テーマとして取り組む。	A
	定期テスト、単元テストなど による状況(各教科)		◇生徒の定期テストへの意欲は高く、効率的な学習に対する意識が高まってきた。 ◆テストの得点のみならず、学習方法やその過程を振り返り、自分に適した学習方法を身につけていくことが課題である。	2. 家庭学習の充実	○学校評価生徒アンケートにおいて、「生徒は自分から進んで発表をしたり、宿題や復習など家庭学習を行っている。」の項目で、肯定的評価が80%以上を目指す。	○各教科で計画的に家庭学習の課題を与え、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化のさらなる充実を図る。 ○キャリアパスポートの振り返り、テスト計画表の作成など、生徒が自らの取り組みを振り返り、改善するための指導を充実させる。 ○通信等を通じて、各家庭への啓発を行う。 ○校区連絡会において、学校評価アンケートの家庭学習の現状を交流し、改善点を探る。	◇キャリアパスポートや、定期テスト毎のテスト計画表の作成や振り返りなどを通じて、客観的に自らの学びについてふり返り、計画的に家庭学習に取り組む習慣が身につけてきている。 ◆学校評価生徒アンケートにおいて、「生徒は自分から進んで発表をしたり、宿題や復習など家庭学習を行っている。」の項目は、肯定的評価が74ポイントであった。多くの生徒は授業で学習した内容や、(漢字、英単語、計算などの)基礎基本の定着を目指し、または次の学習の見通しをたてたり興味があることについての学びを深めるために、主体的に家庭学習に取り組んでいる。生徒が自ら進んで発表することの良さを実感できる授業や、より一層家庭学習に取り組むことができる課題を工夫するとともに、授業において家庭学習の方法について発信し続ける。	B
	授業等からうかがえる状況 (各教科)		◇落ち着いた学習に取り組むことができる。グループでの学びの機会を意識的に組み入れた結果、授業における生徒間の対話が増え、共に学ぶ雰囲気が高まってきている。 ◆自分の考えを筋道を立てて説明することに課題がある。	3. 学力補充	○学校評価生徒アンケートにおいて、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。	○朝学習で基礎基本の定着を図る。 ○テスト前や長期休業中に、学習相談日を設け、個に応じた指導を充実させる。 ○木曜日の放課後や、ひょうごがんばりタイムを活用して、学習状況に課題がある生徒を中心に補充学習を行う。	◇学校評価生徒アンケートにおいて、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目は、肯定的評価が92ポイントであった。 ◇朝学習で教科の繰り返し学習を行い、基礎基本の定着を図った。 ◇長期休業中、テスト前の放課後、木曜日の放課後に学習相談日を設けて学習支援を行った。 ◇「ひょうごがんばりタイム」を実施して、補充学習を行った。 ◆個々の学びの困り感に寄り添い、さらに学習意欲の向上を図る支援を行う。 ◆長期休業中の学習相談を充実させる。	A
校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況	校内研究の状況		◇昨年度まで「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導」を研究テーマとし、教師の授業力向上に取り組んできた。今年度は、『これからの時代に求められる資質・能力の育成ー「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通してー』と研究テーマを刷新し、「資質・能力の三つの柱」を念頭に、さらなる授業改善を目指す。	4. 小中連携の充実	○けやき台中学校校区連絡会を継続的に開催して実践交流を進め、中1ギャップを軽減する。	○校区小学校と「学習指導」「生徒指導」「道徳・人権教育」「特別支援教育」を柱とした交流を行う。 ○入学説明会の日に、小学校6年生を対象として体験または出前授業の充実を図る。	◇学校園所連携連絡会を年間2回開催し、主に「学校経営」、「生徒指導」、「連携教育」、「特別支援教育」について交流を行った。 ◇年度当初に小学校と連絡を取り合い、「生活・学習習慣」や「学習指導」についての交流を行った。 ◇「道徳・人権教育」の年間指導計画(カリキュラム)の小中間の交流を進めた。 ◇今年度は感染予防のため、小学校6年生を対象とした体験授業を実施することはできなかったが、Zoomを利用して児童対象の入学説明会を行い、児童の不安解消につながった。 ◆今後は、授業の見学などを通じて保幼小中間の交流を進め、発達段階に応じて工夫をした取り組みを共有するとともに、学習指導の充実を図る。	B
	校内研修の状況		◇昨年度は、「授業参観weeks」という期間を設定し、授業参観を行った。各授業者の工夫点、発問や課題提示の方法を共有しながら校内全体で授業改善に取り組んできた。今年度も、「生徒の学びの姿」からさらなる授業改善につなげるため、継続して取り組みを進める。 ◆ICT機器を効果的に活用した授業改善を促進するため、研修を進めることが課題である。	5. 読書活動の充実	○生徒会図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、学校図書館の本の貸出冊数を昨年度より増やす。	○朝読書の時間を通じて、読書活動の充実を図る。 ○生徒会図書委員会の取り組み(おすすめ本の紹介など)を通じて、読書活動を推進する。 ○図書ボランティアと連携し、学校図書館の環境整備や昼休みの開館時間、本の貸し出しなどを推進する。 ○給食前後の休み時間に学校図書館を開館し、本の貸し出し機会を充実させ、学校図書室の利用を促進する。 ○「読書通帳」「さんだ子ども読書の日(毎月23日)」を効果的に活用し、生徒の読書に対する意欲を高める。	◇図書ボランティアの協力を得て、昼休みの開館時間や本の貸し出し等が充実した。 ◇感染予防をしながら、学年別に本の貸し出し日を週に3回設けた。図書館を利用する機会が限られており、本の貸出冊数を増やすことは困難であったが、朝読書を行い、読書を習慣化できた。また、生徒会図書委員会を中心に、学期に1回程度「おすすめの本紹介」を行い、読書活動を積極的に行った。 ◆来年度も図書ボランティアと連携し、環境整備や昼休みの開館時間、本の貸し出し等を工夫して推進する。	B
家 庭 ・ 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況		◇子どもの教育に対する関心が高い家庭が多く、学校教育活動にも協力的である。地域活動も活発で、生徒がボランティア活動などを通して地域で活躍することを通して、地域とのつながりをつくることを進めている。					
	小・中における教科連携等の状況		◇入学説明会では、新1年生対象に出前授業をおこなった。 ◆学期に1回、けやき台中学校校区連絡会を行い、実践交流をおこなっている。今後、小・中でさらなる学力向上に向けた学習習慣の定着や授業改善に関する連携が課題である。					